

テーマ

「発達障害」(自閉症) と呼ばないで！「子ども力・遊び力」的アプローチとその支援法とは
「発達障害」の「謎」や「矛盾」に迫る日時：平成25年 **12月1日(日)** 10:00～15:30

10:00～12:30 「発達障害」という不思議な障害をやさしく読み解く

13:30～15:30 「子ども力・遊び力」が日本の子どもと家族、そして地域を元気にする！

場所：**富山大学黒田講堂**講師：**早川たかし** (NPO法人 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊 理事長)

●受講料(1日)：3,500円

●定員 100人



◆現在の日本の子どもたちは どの子ども育ちにくく、育てにくくなっている

昨今、大人が育てにくい子どもに「発達障害」というレッテルを貼るという「新しい差別」が生まれているように思います。保育現場や教育現場で「はみ出た子どもたち」は特別な支援が必要な子どもであると見なされ、専門家の診断を受けさせられています。また、「発達障害」と診断された子どもたちの薬害もクローズアップされてきました。(2013年 6月24日放映・NHK「クローズアップ現代」)

今は誰もが子育てが「普通」にできにくい時代です。地域は崩壊し、親の働く環境は極度に悪化。そして、高度な情報化、ネット依存。子どもたちも生きるにはあまりにも過酷な時代です。遊び環境の崩壊、体験からの乖離、虐待、いじめ、東日本大震災、原発事故。そのような時代背景や時代環境をふまえ、この講座を企画しました。

◆「発達障害」が増えている！ その「障害」の「不思議さ」や「矛盾」を読み解く

『発達障害』と診断されるケースが急増している。子どもだけでなく大人でも猛烈な勢いで増えている。ことに増加が目立っているのは『軽度発達障害』と呼ばれる、比較的症状の軽いケースである。代表的な発達障害のひとつ、ADHD(注意欠陥・多動性障害)の児童の有病率は、我が国でも6割とされる。アメリカでは10割に近づき治療薬を飲んでいる子だけで5割にもなる。(中略)発達障害は生物学的基盤によって起きる中枢神経系の機能的発達の障害とされ、遺伝要因が強いことが知られている。

この文章は「発達障害と呼ばないで」(幻冬社新書 精神科医・岡田尊司著)の冒頭です。また、氏は後に続けて、「発達障害」は他の精神疾患と同様に遺伝要因が同じくらい強いとされるのに、何故、この障害だけが猛烈に増えているのか？と述べ、「発達障害」児増加の「謎」や「概念」そのものの欠陥や矛盾を明らかにするのが本著の使命であると書いています。

午前の部は岡田尊司氏(京都医療少年院)、滝川一廣氏(精神科医)、澤口俊之氏(脳科学者)、渡辺久子氏(児童精神科医)の諸氏の手を借り、「謎」や「矛盾」に分かりやすく、やさしく迫ります。

◆「子ども力・遊び力」的アプローチとその支援法

午後の部のテーマは「子ども力・遊び力を育児や保育や教育に役立てよう！」です。当法人では「かわいがりずむ子育て相談」や「親子ふれあい遊びワークショップ」などの活動を通して、「発達障害」と呼ばれる子どもや家族に、「子ども力・遊び力」的アプローチを行ってきました。「子ども力・遊び力」は、そうした傾向をもった子どもの可能性を開花させるために必要な「力」として実践されてきました。それらの事例(保育園や小学校、家族)の報告を行い、支援の仕方を学び合いたいと思います。

◆「子ども力・遊び力」が日本の子どもと家族、そして地域を元気にする！

理事長・早川たかしによる「皿回し遊びのレッスン付き講演」は県内外に広がっています。皿回しセットの販売数は2万枚にのぼりました。子どもの健全な成長には子どもが育つ地域が健全でなくてはなりません。バカになって遊ぶ(皿回し)ことができる(「子ども力・遊び力」)しなやかな心をもつ大人が今地域に必要です。

子どもにかかわる幅広い方々の参加をお待ちしています。

「子ども力=遊び力」が未来をひらく



NPO法人

富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊

◎連絡・お問い合わせは・・・

NPO法人 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊
〒930-0138 富山市呉羽町6454番地1
電話・FAX 076-436-6675